

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：WILLER 株式会社 代表者職名・氏名：代表取締役 村瀬 茂高
補助事業テーマ	ニューノーマルに対応した健康プログラムと MaaS のけいはんなモデル実証事業
事業実施期間	令和2年10月12日～令和3年2月28日
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ① 自動運転バスと他事業と掛け合わせた新移動サービスの実証 ② 利用者の生活実態や受容性調査、実用化に向けた収益モデル検討
事業の実績(成果)	<ul style="list-style-type: none"> ① 2021年2月13日から15日を除く19日までの6日間、サービス実証として「自動運転でお出かけしよう！健康プログラム体験」を完遂した。自動運転バスとシェアサイクルが連動したモビリティサービスに加えて、フィットネスプログラムとテレワーク体験を掛け合わせたプログラムを考案し、コロナ禍で外出を控える住民のおでかけと健康を促進するサービスモデルの検証を行った。複数サービスを包括したプログラムの必要性、サービスの運用コストを把握することができ、今後のさらなるサービス追求や環境に合わせたモビリティの配置の必要性が理解できた。 ② 利用者へのアンケート調査および座談会でのヒアリングにより、けいはんなにおける住民の生活動態や移動コストを把握することができた。サービス価格設定の参考にするとともに、他の事業との掛け合わせも今後検討していく。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナ禍における新たな移動機会の創出 今後無人走行が早期実現すれば、コロナだけでなく別の感染症にも対応できる移動手段が確保できることになる。技術の進歩だけでなく、その技術を地域に根付かせることもまた重要であり、地域によって適切な運行計画を立て、住民の需要に即したオペレーションをしていくことが益々求められていく。 ② 移動×サービスの収益モデルの探求 今回のような移動×サービスの相性は良く、利用者も単体モデルより掛け合わせモデルの方がより付加価値を感じやすいことが、アンケートや座談会を通してわかった。今後は価格設定やモデルプランのさらなる深掘をしていくとともに、他のサービスの検討もしていくことで、より多くの利用者が見込め、事業性の高いモデルを探求していく。